

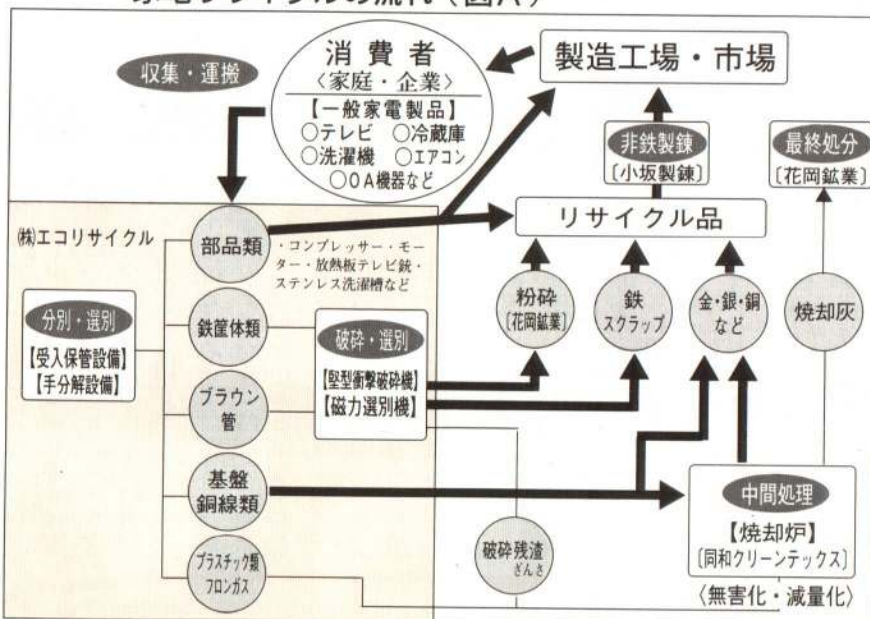


分解された冷蔵庫は破砕機に通ばれ(右)、ゴルフボール状に(左)

同和クリーンテックスで燃焼(無害化・減量化)され、花岡鋳業の最終処分場に運ばれます。今後はメーカーのリデュースによるプラスチックの材料表示が浸透して、リサイクルできることと思います(現在持ち込まれる大半は製造後十年以上経過したものがほとんど)。テレビ一台を分解する平均所要時間は十五分で、一人一日三十台―五十台くらいを予定してるとのこと。

冷蔵庫は冷媒フロンガス回収後(報告義務がある)、分別・手分解され、リサイクル工場へ。筐体は破砕機に入れられ、ゴルフボール状の鉄の固まりになります。その際に断熱材からフロンガス(冷媒

家電リサイクルの流れ(図A)



用の四倍使用)が出てますが、フロンは破砕機からパイプラインで同和クリーンテックスのロータリーキルンに送風され、高温で燃焼・無害化されます。砂粒状になったウレタン原料は一台当たりほんの一握りで、これものちほど、まとめて同和クリーンテックスで燃焼されます。「エコリサイクル」の稼働量は月二千五百台〜五千台だそうで、青森・岩手・秋田の家

電出荷量の三〇%を見ているとのことです。

なぜここなのか

鉱山(マイン)があったから、銅、亜鉛、鉛、バリウム、硫化鉄等を含む)鉱山であったから複合型精錬所が周りにあり、また鉱毒対策等の公害防止技術があったということになります。それを今リ

サイクルに活用している、まさにリサイクルマインパークだと思いました。世界遺産白山地の大自然のふもとでの再資源工場は「世界的にもここだけではないでしょうか」とのお話でした。

現状は

さて、気になる家電リサイクル料金ですが、現状でまだ全メーカーから提示が出ていない状態です。家電リサイクル法の施行まであと半年なのですが、今出ているメーカーは松下、東芝、日立、三菱で洗濯機二千四百円、テレ

ビ二千七百円、エアコン三千五百円、冷蔵庫四千六百円。これも取材中(九月六日)に出てきたところがほとんどで、皆さんが読みになっているところには、出そろっていることと思います。

大館市のほうでも各メーカーの料金が出てからでないと、料金を算出できないそうです。引き取りは現在、市でお願いしている一般収集業者に頼む形になるとのことです。でも、輸入品(韓国、スター社製など)はどうするとか、代金決済方法(家電メーカーでは郵便局が有力)とか、いろいろ解決しなければならぬ問題があるそうです。

さいひつ

最近の家電品(特に家電四品目)は、現在廃棄されているものより効率が良くなり、電気消費量もだいぶ少なくなりました。ですから、古い家電品が壊れても修理して使おうと思う人はあまりいなくなりました。近ごろは、大量消費の二十世紀からリサイクルの二十一世紀と言われています。家電四品目以外のものは、再利用したり、修理(リユース)したりして「地球にやさしく」しなくてはならないと再認識しました。